

01-037

福島県郡山市における東日本大震災後の肥満児童生徒の経年的変化 ～運動実施との関係について～

菊池 信太郎<sup>1)</sup>、高橋 千春<sup>1)</sup>、村山 枝里<sup>1)</sup>、長野 康平<sup>2)</sup>

医療法人仁寿会 菊池記念こども保健医学研究所<sup>1)</sup>、  
山梨大学教育学部<sup>2)</sup>

**【背景】**2011年に発生した東日本大震災から9年が経過した。福島県では屋外活動の制限などによる生活習慣の変化から肥満傾向児の増加が生じ、様々な対策が取られ改善傾向にある。児童生徒の体格の推移を継続的に見守ることが重要である観点から、郡山市では市内の全小中学生の体格調査を2012年度から継続的に行っている。また、2013年度から同じ対象に、運動実施やスクリーンタイムなどを含めた生活習慣に関するアンケート調査を行っている。前回の本大会で、小学6年生(以下小6)の高度肥満の半数は既に小2から持続していること、小6の高度肥満の約半数は、中学3年(中3)までに改善することを報告した。今回は体格調査と生活習慣アンケートを統合し、同集団に肥満の推移と運動実施との関連性について報告する。

**【方法】**毎年1学期、市内の全小中学生を対象に新体力テストと身長・体重を測定している。また同学期に、運動実施時間、遊びの内容、テレビやゲームの時間、食生活などの生活習慣に関し、アンケート用紙を用いた調査を行っている。対象は、小6から中3まで、継続的に身長・体重を測定し、アンケート調査の返答を得られた7,744(男子3,973、女子3,771)人。

**【結果】**小6で肥満傾向児は1067人(全体の14%)で、高度肥満は118人(1.5%)。そのうち49%は中3まで高度肥満を維持した。週10時間以上の運動実施を行っていた男子は、39%が高度肥満を維持したが、16%が軽度肥満以下に改善した。女子では同様に26%、42%であった。一方、運動実施の無い男子で66%、女子では65%が高度肥満を維持した。小6で中等度および軽度肥満児はともに、週10時間以上の運動実施群が肥満度の改善は良かった。

**【考察】**小6で肥満傾向児であった児童の多くは、中学校で週10時間以上の運動を行うと肥満傾向の改善が良好であった。運動部等への加入などで運動実施の機会と時間を確保するためには、運動を嫌いにさせないことが重要である。肥満傾向は低学年から継続しているため、未就学児から小学低学年までの間に運動実施の習慣をつけ、体を動かすことが好きになる取り組みと工夫が求められる。アンケート調査の結果からは、肥満の程度と運動部への所属率や、ゲーム、テレビとの接触時間との相関関係も明らかなることから、肥満予防のためには幼少期からこれらの生活習慣を意識した啓発をしなければならぬ。震災後の大規模調査からの知見を今後も周知していきたい。

01-038

演題取下げ